

一 朝が やって くる

よあけの 空を

そつと おしあけて

あくびを ひとつ

二 小鳥が よびかける

「きのうの ことは わすれて

さあ はじめよう」と

こずえで うたう

三 光が さしこむ

まどを こえ つくえを こえ

ねむった ぼくの ほおを

あたたかい 手で なでる

四 あたらしい 一日が

まっさらな ノートのように

ぼくの 前に

しずかに ひらいて いる



School Stock 『朝』より

（一）第一連の「よあけの空をそつとおしあけて」は、朝を何のようにえがいた表現ですか。最も適切なものを一つ選びましょう。

ア 朝を、こわい生き物のようにえがいている

イ 朝を、まるで人のように（人の動作をするものとして）えがいている

ウ 朝を、冷たい石のようにえがいている

エ 朝を、色のない世界としてえがいている

（二）第二連で、小鳥は「さあはじめよう」とよびかけています。この言葉には、新しい一日に対する、どんな気持ちがかめられていますか。書きましょう。

（三）第三連の「あたたかい手でなでる」は、何の様子をたとえた表現ですか。詩の言葉を使って書きましょう。

（四）この詩で、朝や光を人のようにえがく表現（擬人法）が使われている部分を、詩の中から一つ書きぬきましょう。

（五）第四連の「あたらしい一日が／まっさらなノートのように……ひらいている」は、読む人にどんなことを伝えようとしていると考えますか。あなたの考えを書きましょう。

例えば

「新しい一日は、自分しだいで、どんなふうにもつくっていきける、ということ。」

「まだ何もない一日を、大切に、前向きにすごそう、という気持ち。」

一 朝が やって くる

よあけの 空を

そつと おしあけて

あくびを ひとつ

二 小鳥が よびかける

「きのうの ことは わすれて

さあ はじめよう」と

こずえで うたう

三 光が さしこむ

まどを こえ つくえを こえ

ねむった ぼくの ほおを

あたたかい 手で なでる

四 あたらしい 一日が

まっさらな ノートの ように

ぼくの 前に

しずかに ひらいて いる



School Stock 『朝』より

(一) 第一連の「よあけの空をそつとおしあけて」は、朝を何のようにえがいた表現ですか。最も適切なものを一つ選びましょう。

ア 朝を、こわい生き物のようにえがいている

イ 朝を、まるで人のように(人の動作をするものとして)えがいている

ウ 朝を、冷たい石のようにえがいている

エ 朝を、色のない世界としてえがいている

(二) 第二連で、小鳥は「さあはじめよう」とよびかけています。この言葉には、新しい一日に対する、どんな気持ちがかめられていますか。書きましょう。

(例) きのうのいやなことは忘れて、新しい一日を、前向きに、元氣よく始めようとする気持ち。

(三) 第三連の「あたたかい手でなでる」は、何の様子をたとえた表現ですか。詩の言葉を使って書きましょう。

(例) 朝の光が、ねむっているぼくのほおを、やさしく照らす様子。

(四) この詩で、朝や光を人のようにえがく表現(擬人法)が使われている部分を、詩の中から一つ書きぬきましょう。

(例) 「朝がやってくる」／「あくびをひとつ」／「小鳥がよびかける」／「あたたかい手でなでる」のうち一つ

(五) 第四連の「あたらしい一日が／まっさらなノートのように……ひらいている」は、読む人にどんなことを伝えようとしていると考えますか。あなたの考えを書きましょう。

(例) 新しい一日は、まだ何も書かれていないノートのように、これから自分だけで、どんなふうにもつくっていきける、ということ。

例えば

「新しい一日は、自分しだいで、どんなふうにもつくっていきける、ということ。」

「まだ何もない一日を、大切に、前向きにすごそう、という気持ち。」

問1 イ

「空を そっと おしあけて」「あくびを ひとつ」は、人の動作です。朝を人のようにえがく擬人法が使われています。

問2 （例）きのうのいやなことは忘れて、新しい一日を、前向きに、元気よく始めようとする気持ち。

「きのうの ことは わすれて」「さあ はじめよう」から、前向きで明るい気持ちを読み取ります。

問3 （例）朝の光が、ねむっているぼくのほおを、やさしく照らす様子。

「光が さしこむ」「ほおを……なでる」から、光がやさしくあたる様子をたとえています。

問4 （例）「朝が やって くる」／「あくびを ひとつ」／「小鳥が よびかける」／「あたたかい 手で なでる」 のうち一つ

人の動作や気持ちを表す言葉が、朝・小鳥・光などに使われている部分をさがします。

問5 （例）新しい一日は、まだ何も書かれていないノートのように、これから自分しだいで、どんなふうにももつukっていける、ということ。

「まっさらなノート」を、自分の一日や人生に重ねて考えられると、よい読みになります。自分の言葉で理由を書けていれば正解です。